



ふれあい なのかいち

新年を迎える心構え

7-4 丸田 俊彦

ここ数年、年末になると「自分でしめ縄を作って新しい年を迎えたい」という思いがありました。そんな時にしめ縄講習会の回覧を見て、子どもと一緒に申し込みました。

しめ縄作りは、小学生の頃以来なのですっかり作り方を忘れていましたが、講師や経験者の皆さんから教わってごぼう締めを作っていると、体が思い出してきました。自分で作ったしめ飾りは、売り物のように上手にはできませんでしたが、わらの匂いと手触りを感じながら、新年を迎える心構えや気持ちの準備をすることができ、1年の締めくくりとして充実した時間を過ごせました。



①



②



③



④



⑤

しめ縄講習会

十二月三日(日)に榆地区の甕丈和様を講師にお迎えし、しめ縄講習会を開催しました。

当日使用した藁は、細田農産様のご協力で九月から準備し、二年ぶりに講習会を行うことができました。最初は思うように藁を扱うことが難しかった参加者も、最後は立派なしめ縄飾りができて満足の様子でした。

生活部 副部長 山田 七重

- ① 出来上がったオリジナルしめ縄飾り
- ② 親子で参加
- ③ 講習会の様子
- ④ 藁鋤き (乾燥した藁を鋤いて長さを揃える)
- ⑤ 藁叩き (お湯に浸し叩いて柔らかくする)

運動会に参加して

7-5 大井 将憲

秋晴れの下、三郷地域市民運動会（みさとふれあい運動会）が5年ぶりに行われました。

一致団結リレーなど2種目に参加しましたが他の競技も含めて、年齢や性別を問わず参加しやすい競技が多くありました。親子競技では、幼児・園児と保護者が一緒にダンスとお土産ひろいをしており、グラウンドが和やかな雰囲気になりました。

三郷の子ども達が元気な姿を感じることができ、また、久しぶりに体を動かさせた楽しい一日となりました。



市民運動会

【2023年10月22日】

「七日市場の風景写真展」

公民館長 加藤 崇雄

九月十日に「七日市場の歴史を学ぶ会」との共催で、七日市場では初めての風景写真展を開催しました。地区の皆さんから総数三十八枚の写真をご応募いただき、七日市場地区の「くらしの中の農作業風景」写真三十枚とともにたくさんの方々に見ていただきとても好評でした。

また、二階のホールではコーラス喫茶を開店。淹れたてのコーヒーを味わいながら、コーラスサークルの皆さんと一緒に懐かしい唱歌やフォークソングを歌ったり、サークルの皆さんの素晴らしい歌声を披露していただき楽しい時間を過ごしました。

さらには、三郷公民館・藤松館長さんのご協力を得、十月の三郷文化祭でもこの写真



七日市場の風景写真展

【2023年9月10日】

真をそっくり展示することができました。他地区の方からは、「うちの地区でもこんな写真展を開きたい」という声が上がったそうです。

素敵な写真を応募してくださった皆さん、展示やコーラス喫茶にご協力をいただいた皆さん、ほんとうにありがとうございました。



コーラス喫茶の様子

Wi-Fiが使えるようになりました

コミュニティーセンターに、あずみ野TVのインターネット回線を引きました。

またパソコン、プロジェクター、プリンター、50 インチスクリーンも購入しました。

コミュニティーセンターで行うイベントなどに使えます。

使用希望の方は、3 役に声をかけてください。



副公民館長 杉田 浩康

『七日市場の史跡を訪ねて』

3-10 関口 美貴

秋の穏やかな陽射しの中、諏訪神社から藤ノ木へ歩いた。道中、道祖神や馬頭観音像、観音菩薩像、二十三夜塔の所で足を止めて、歴史の会の方の説明に耳を傾けた。頻繁に車の行き交う道の端に建っている。江戸時代に隣村と共に、肩組む道祖神が建てられたこと、馬を偲び、家や村で馬頭観音像を建てたこと、堰の開削が鎌倉時代に既に行われていたこと、諏訪神社は大正時代に大きく整備されたこと。この七日市場で暮らしてきた人々の思い、暮らし方を身近に感じられた秋の一日となりました。



左：観音菩薩像
右：馬頭観世音



珍しい双体抱肩の
道祖神

ふるさと史跡めぐり

十月二十九日(日)、三回目となる『ふるさと史跡めぐり』が秋空の下開催されました。

七日市場の歴史を学ぶ会の曾根原孝和さん(3-16)・布山弘さん(2-1)・等々力滋さん(1-5)を講師にお迎えし、七日市場諏訪神社から、藤ノ木地区の保存文化財や石仏群、横沢堰、長尾藤ノ木の道祖神や石仏、浅間神社、等々力家の屋敷林、庄野堰を参加者二十七名が約2時間かけて巡りました。

生活部 副部長 山田 七重



ふるさと史跡めぐり

【2023年10月29日】

✓「いま、これが気になっています！」

七日市場の風景は美しい。しかし日々眺めるこの景色が決して当たり前のものではないと、今年の元日あらためて突きつけられました。

これまでも各地の災害を知るたびに日常の存在は奇跡だと痛感させられてきましたが、能登の大地震には特別の悲しみを覚えました。その発生がコロナ禍を越えて漸く戻ってきた、里帰りのご家族も集う普段のお正月だったからです。

防災減災に向けた日頃の備えは勿論ですが、この地の美しい風景が当然でも永遠でもない、極めて尊いものであることも心に留め、大切にしようと思います。

1-10 紅林奈美夫



「七日市場の歴史（第五十八回）」

地区の話題

曾根原 孝和

涅槃会（ねはんえ）とは 陰暦二月十五日の釈迦入滅の日に日本や中国などで行われる、お釈迦様の遺徳の追慕と報徳のための法要です。現在は三月に行なわれる所もあります。



法要は、寺や堂などで涅槃図を掲げ「やしょうま」を供え、生花なども添えます。参加者はお経を唱えてお参りをします。

涅槃図とは 釈迦が涅槃に入る時の様子を描いた絵です。釈迦は沙羅双樹の下で頭を北、顔を西、右脇を下に臥しています。そして、釈迦を囲み弟子・国王・菩薩等 60衆と動物が50類前後描かれています。

七日市場の涅槃図は、58衆と41類で、ごちんまりとした小品です。しかし、質素な中にまとまりがあり、釈迦の姿が大きく描かれ、全体の色彩が美しいのが特色です。

七日市場の涅槃会 平成二十一年に涅槃図が諏訪神社で保管されている



ことが分かり、先人への聞き取りや集会記録の調査等からはつきりしてきたことが多いです。

・涅槃図は神社の宝蔵倉に保管されていた（神社北の阿弥陀堂からか）。

・涅槃図を描いた人は七日市場の人であろう（江戸末期ころか）。

・涅槃会は昭和四十年ころまで公民館で行われ、子どもに、「やしょうま」を配った。耕地総代が近隣の応援を得て作ったようである。

・昭和十七年の記録に「例年1斗分の粉を使ったが今年は1升分」と。

涅槃会の復活 「歴史の会」では、涅槃図の絵解き、他地域の涅槃図の拝観、女性会員の「やしょうま」作りの習得などから、平成二十五年に約年ぶりの涅槃会を復活しました。

※今年は二月二十五日（日）、「やしょうま」配布一…三〇、涅槃会二…三〇、直会（なおりい）三…〇〇を行います。会員以外の方のご参加も歓迎しています。

お礼の言葉

七日市場地区公民館ホームページの立ち上げから十年の長きにわたり運用管理・監修を担っていたいただいた松尾学様が引退されることになりました。また、分館報の発行の当初から分館報編集委員として編集・校正に携わってこられた木船章様と丸山博幸様が退任されることとなりました。

三人の皆様の長年にわたる分館事業へのご尽力とご貢献に対し、七日市場地区公民館を代表し、心からの感謝を申し上げます。またホームページの監修、分館報発行に際しての真摯な取り組み姿勢と熱意は私たちのこれからの編集作業の鏡として今後の励みとさせて頂きます。

これからも引き続きのご指導とご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。るとともに、皆様のご健康をお祈りいたします。

公民館長
編集委員一同



七日市場地区公民館報
ふれあい なのかいち

Vol. 2 2 No. 3 第63号

【発行日】2024年2月10日

【発行所】七日市場地区公民館

【発行人】加藤 崇雄

【編集人】杉田 浩康

【監修】太田 隆

【編集委員】

田原 茂 (文化部)

新井 満 (体育部)

山田 七重 (生活部)

花岡 正明 (ボランティア)

松尾 常德 (ボランティア)

寺沢 真弓 (ボランティア)